

小学校第3学年 学級活動指導案

指導者 T 1 学級担任
T 2 栄養教諭

1 題材名 「朝ごはんをパワーアップさせよう」

2 題材の目標

- 赤・黄・緑の仲間の食品がそろった朝ごはんが大切であることを理解する。【知識及び技能】
- 朝ごはんの献立に赤・黄・緑の中から足りない食品を選んだり、補ったりする。
【思考力・判断力・表現力】
- 自分の朝ごはん内容を振り返り、課題を見付け、改善していこうとする意欲をもつ。
【学びに向かう力・人間性等】

3 食育の視点

食に関する指導の目標					
食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
	○				

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・朝ごはんに赤・黄・緑の食品を組み合わせて食べることの大切さを理解している。	・赤・黄・緑の食品を取り入れた朝ごはんにするために、足りないのを足したり変えたりしている。	・自分の朝ごはん内容を振り返って課題を見付け、改善する意欲をもって取り組んでいる。

5 単元と指導の構想

(1) 題材と児童

児童は毎日の給食を楽しみにしており、量の差はあるものの、ほとんど残さず食べている。

前時までに、朝ごはんの効果について、3つの色ごとに「赤→からだ」、「黄→あたま」、「緑→おなか」のスイッチが入ることについて理解している。

事前の朝ごはんアンケートの結果、朝ごはんはほぼ100%の児童が食べてはいるが、内容としては赤・黄・緑の食品がそろっている児童は40.3%だった。また、ご飯またはパンと飲み物だけ、という組み合わせの児童が25.8%、菓子パンを食べている児童が17.7%、コーンフレークのみ児童が13.3%だった。このことから、栄養バランスのよい朝ごはんを食べるための工夫について身に付けさせたい。

(2) 指導の構想

事前アンケートの結果により、多かった朝ごはん内容を示し、問題点を見付ける。班活動により、簡単に習慣化しやすい解決策を考えさせたい。さらに自分の朝ごはんを振り返り、改善すべき点に気づき、解決策を考え、おうちの人に伝えることでよりよい朝ごはんの習慣化につなげたい。

① 朝ごはんの役割について学ぶ

朝ごはんを食べることの効果について、赤・黄・緑の食品それぞれの体のスイッチについて学ぶ。

② 多かった朝ごはん内容の提示

ふりかけや菓子パンの実物や食べ物の写真カードを用いて、朝ごはんアンケートで多かったメニューを2パターン紹介する。それぞれの場合において、どんな工夫をしたらパワーアップした朝ごはんになるのか、班活動の話し合いを通して学ぶ。

③ 給食を用いた、班活動の話し合い内容の例示

授業前に食べた給食の材料を用いて、班活動で話し合う方法について例示することで、作業の進め方を確認する。

④ 簡単にパワーアップさせる方法の提示

毎日続けることができるよう、実物と写真カードを用いて、「開けるだけ」、「むくだけ」など、3年生の児童でも「自分で」できそうなことも含めて伝える。

⑤ 事後活動

保護者に食育だよりを配付し、簡単にパワーアップさせるための方法について紹介する。家で実践したことについて記録し、提出させることで、家庭での意識付けを図る。

6 単元の指導計画（全2時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価			
		知	思	態	評価規準
1	○朝ごはんの役割について理解する ・朝ごはんを食べる効果について学ぶ。 ・赤、黄、緑の食品それぞれの、体のスイッチについて学ぶ。	○			朝ごはんの役割について理解している。
2 本 時	○朝ごはん内容を振り返り、栄養のバランスをよりよくするための方法を見付ける。 ・朝ごはん内容が赤、黄、緑の食品が含まれているか確認し、よりよくするための方法を考える。	○	○		自分の朝ごはんに足りないものを足したり、変えたりすることができる。
事 後	○家で実践したことを記録し、提出する。 ・食育だよりを通して、家庭へ働きかける。			○	栄養バランスのよい朝ごはんの考え方をうちの人に知らせることができる。自分でも簡単なことにチャレンジしている。

7 本時の計画（2時間目／全2時間）

(1) 本時のねらい

朝ごはんの献立について、アンケート結果から問題点を見付けたり、自分の朝ごはんを振り返ったりする活動を通して、栄養のバランスをよりよくするための方法を見付けることができる。

(2) 本時の構想

①アンケート結果の提示

事前に行った朝ごはんアンケートの結果で、多かった2パターンの朝ごはんを提示する。それぞれのパターンにおいて、3つの色の食べ物が入った朝ごはんになるようにするために、どのような手立てがあるか考えさせる。

②班活動によるパワーアップ方法についての話し合い

アンケート結果で多かった2パターンの朝ごはんについて、ロイロノートで3つの色ごとのメニューを組み合わせるパワーアップさせるための方法を班で話し合う。

③自分の朝ごはんを振り返り、よりよくするための方法について考える

今までの朝ごはんを振り返り、班活動により学んだ方法を生かして、続けていきたいこと、これからチャレンジしていきたいこと、おうちの人をお願いしたいこと等について記述する。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価規準(観点/方法)・○留意点
<p>導入 (7分)</p> <p>1 アンケート結果から、多かった例を2つ挙げ、問題点と解決策を考える。</p>	<p>T1 前回の復習をしましょう。</p> <p>T2 実は、みなさんの朝ごはんの内容についてのアンケート結果を見ると、この2パターンの朝ごはんの人が多かったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aパターン ふりかけご飯とお茶 ・Bパターン 菓子パンと牛乳 <p>T3 気付いたことはありますか？</p> <p>C1 野菜がない。</p> <p>C2 栄養バランスが悪い。</p> <p>T4 3つのスイッチが入る組み合わせでしょうか？</p> <p>C3 入らない。</p> <p>T5 どうしたらいいのかな？ 今日の課題はどうなるかな？</p>	<p>○3つのスイッチと3つの色の食品と体の働き、朝ごはんの働きについてホワイトボードに掲示する。</p> <p>○ふりかけ、菓子パンは実物を提示する。</p>
<p>展開 (25分)</p> <p>2 班活動によりパワーアップメニューを考える。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>かだい 朝ごはんをパワーアップさせるには、どうしたらよいか？</p> </div> <p>T6 Aパターンの場合、どうしたらパワーアップできるでしょうか。</p> <p>C4 赤がないから、目玉焼きを食べる。</p> <p>C5 緑がないから、サラダを食べる。</p> <p>T7 ではBパターンは？</p> <p>C6 黄と赤はあるから、野菜スープを足す。</p> <p>T8 では、これから班活動に入ります。</p> <p>1～4班はAパターンの「ごはん」、5～8班はBパターンの「パン」の、パワーアップメニューを考えてください。</p> <p>C7 飲み物は牛乳にすればいいよ。</p> <p>C8 ウインナーとかどうかな。</p> <p>T9 できた班はロイロノートで送ってください。発表してください。</p> <p>C9 ごはんに合うように、みそ汁を足しました。</p> <p>C10 レタスとトマトときゅうりのサラダを足しました。</p> <p>T10 どの班も工夫していましたね。では、みんなのアイデアをもとにし</p>	<p>○子どもの声を拾いながら、学習課題の文言を一緒につくる。</p> <p>○写真カードを足すように張り付けるか、板書する。</p> <p>○ロイロノートでワークシート配付。班で1台のタブレットを使用する。</p> <p>○今日の給食の材料を使って、やり方の例を示す。</p> <p>○ロイロノートで提出させる。1つの班ごとにテレビ画面で共有し、工夫点を発表させる。</p>

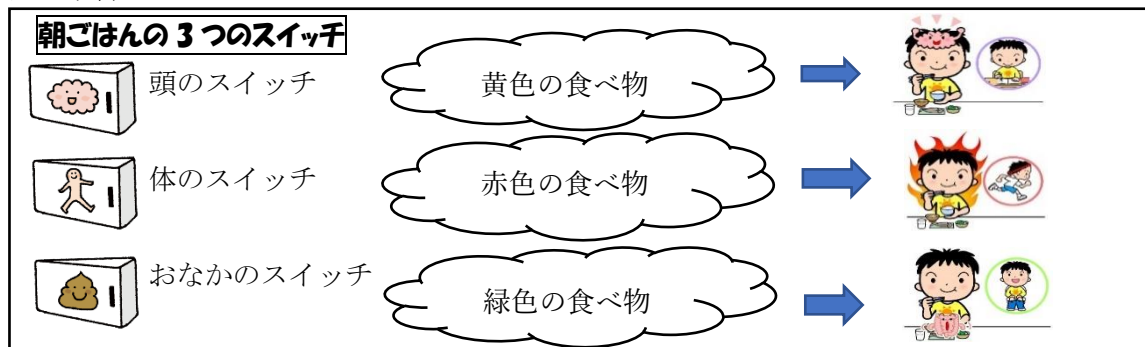
<p>まとめ(3分)</p> <p>振り返り(10分)</p> <p>3 自分の朝ごはんを振り返り、パワーアップさせる方法を考える。</p>	<p>て、簡単にパワーアップさせるための方法について、まとめてみましょう。朝ごはんは毎日のことなので、簡単に続けていけるような工夫が必要ですね。3年生のみなさんが、自分でできそうなことはあるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み物を、牛乳に変える ・汁物に、いろいろ入れる ・赤・黄・緑 全部一緒 ・フタを開けるだけ ・皮をむくだけ <p>まとめ パワーアップさせるには、赤・黄・緑の食べ物がそろるように食品を足したり、変えたりするとよい</p> <p>T11 今度は自分の朝ごはんについて見直してみましょう。3つの色がそろっていたかな？パワーアップさせるためにできそうなことを、赤鉛筆で、足したり、変えたりしてみましょう。自分でできることと、おうちの人にたのんでみたいことを書いてみましょう。</p> <p>C11 ハムだったら自分で用意できそう。</p> <p>C12 今までジュースを飲んでいただけ、牛乳にしよう。</p> <p>C13 おうちの人に〇〇をお願いしたいなあ</p>	<p>○実物や写真カードを掲示しながら紹介する。 赤が足りない場合→ ・乾燥わかめ・ハム・牛乳 ・納豆・チーズ ・ウインナー 緑が足りない場合→ ・バナナ・ミニトマト</p> <p>○子どもの声を拾いながら、まとめの文言を一緒につくる。</p> <p>■赤・黄・緑の食品を組み合わせた朝食がよいことを理解している。(発言/知識及び技能)</p> <p>○食べてきた朝ごはんについて、授業前に記入させておく。</p> <p>○赤鉛筆を使って足したり変えたりさせる。記入例を示す。</p> <p>○振り返りワークシート記入</p> <p>■自分の朝ごはんに足りないものを足したり、変えたりすることができたか。(思考力、判断力、表現力/ワークシートの記述の見取り)</p>
--	--	---

(4) 評価

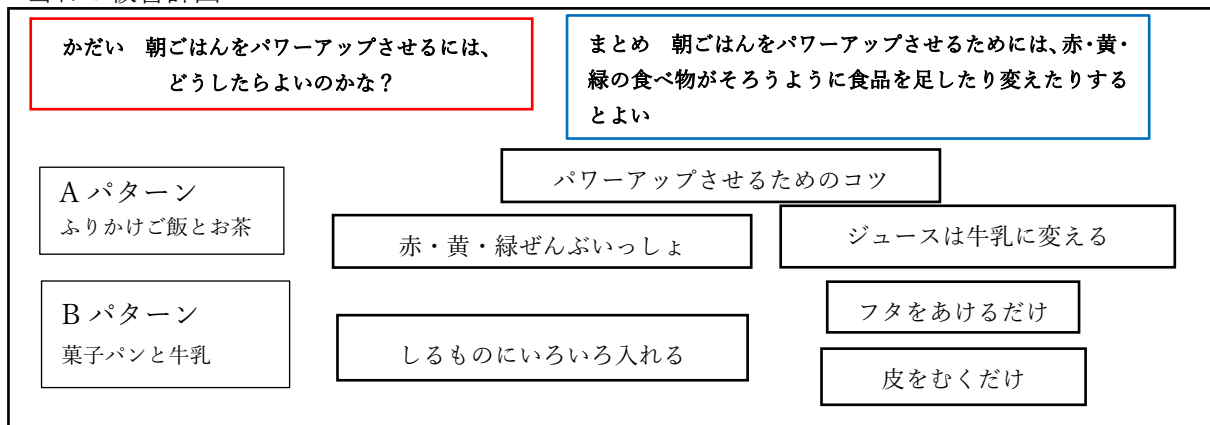
自分の朝ごはんを振り返り、栄養のバランスをよりよくするための方法を見付けることができたか。(思考力、判断力、表現力/ワークシートの記述の見取り)

8 板書計画

・前回の学習振り返り ホワイトボード



・当日の板書計画



9 ワークシート

(1) 今朝、朝ごはんを食べてきましたか？

はい → (2)の質問に進む

いいえ → 理由を教えてください

(2) 何を食べましたか？

ごはん パン めん コーンフレーク ぎゅうにゅう ヨーグルト たまご なつとう
ウインナーやハム

サラダ → 何が入っていたかな？ ()

みそしる・スープ → 何が入っていたかな？ ()

のみもの() くだもの() ほかに食べたもの()

10 当日の板書



11 協議会記録

○協議内容

視点1: 授業者の手立ては、子どもが自分の課題として捉え意欲的に取り組めるものであったか。

A…前時の「赤・黄色・緑をそろえるとよい」という学習を理解していた。

班活動も意欲的に話し合いが行われていた。

△自分事としてとらえるのは難しかったのでは。具体的に赤・黄色・緑がそろうと良いのだよ、主食・主菜・副菜がそろうと良い(3年生には難しいかと思うが)というような、どのようなものがよいのかということを押さえると良かった。

△表をもう少し工夫できるとよりグループ活動がやりやすかったのではないか。

△グループ活動→ペア活動でも良かった

B…実物や写真が貼ってあることで、子どもたちがぐっと引き込まれて授業に集中していた。
△AパターンとBパターンと分かれていたが、具体的に〇%いたよ、と伝えるとよかったのではないか。

△課題を自分たちの言葉で作っていたが、自分でどうやって工夫できるかということも大きな課題のひとつであったのではないかと思うので、その課題に「自分でできるにはどうしたらよいか」と付け加えてみると、自分でできる工夫について、もう少し活動が深まったのではないか。

C…自分の朝ごはんを変えたいなと思っている人がどれくらいいたか。

△給食をもう少し活用できたらよかった。例えば、ABパターンが出た時に給食を出して、給食はこんなにバランスがよいということを伝える。パワーアップする方法を提示するときに給食を出して考えさせるとよかったのではないか。

視点2：子供が考えを広げ深めるとともに、課題解決のための意思決定をすることができたか。

B…意思決定をする時間が必要だった。

自分ができることを栄養教諭が示すことで子どもたちの意欲につながった。

自分たちができることは何かと考える活動があってもよかった。

C…ICTを活用していた。

子どもたちが簡単にできる方法を提示していて、考えやすかったのではないか。

栄養教諭と子どもたちの関係がよい関係である。

その他：ロイロノートのシートを共有にすると、班で各自動かすことができる機能もある。

担任の先生とTTだったので、担任の先生との掛け合いがもう少しあってもよかったのではないか。自分の朝食がどうだったのか振り返る場面があるとよかった。

【指導者より】

○今日の授業から

本日の授業は、食に関する指導の全体計画の10月の中学年「3つの食べ物の働きを知ろう」からきている。計画に基づいて、子どもたちの実態に応じて中身を考えている。

視点1…主体的に学習に取り組む態度についての視点→自分の朝ごはん内容を振り返り、課題を見つけ改善していこうとする意欲をもつことができるか。

視点2…思考・判断・表現力で評価できる視点→朝ごはんの献立に赤・黄・緑の中から足りない食品を選んだり補ったりしていることができているか。

- ・Aパターン・Bパターンの実態を示したが、初めは自分の朝食を考える内容であった。しかし、家庭の事情をオープンにするのは人権の問題にもなる。一般的なパターンでぼやかしていた。
- ・ロイロノート初挑戦だったが、やりながら子どもたちの実態に合わせて設定する必要がある。グループの活動について、関わり合いながらという姿がよく見られた。
- ・コメントから、それなりに課題に向き合っていた姿がみられ、ねらいは達成されていた。

○教科等の時間における食の指導について

- ・栄養教諭は日常的に授業をするのは難しい。

指導案を作成するとき、市総合教育センターの授業づくりサポートを活用する←今年のものとはとても分かりやすいため。

資質能力を育成させるために、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改革で、それを支える個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実による授業の質の向上を目指していく。

その視点で見ていくと、「主体的・対話的で深い学び」のところは、子どもたちが「前のめり」になる教材を開発したり、展開を考えたりすることが必要。今回の授業で感心したのは、いつも担任の先生が苦勞している児童が栄養バランスについてよく考えていたし、栄養教諭と積極的にかかわろうとしていて、正に「前のめり」な姿が見えた。自分の生活をベースにした学習は、彼らにとって財産になった。どういう教材をもってくるかが大事で、まさに主体的・対話的だった。

- 授業づくりについて、授業のねらいの明確化が大事である。ねらいがぶれていると、授業が根底からずれていく。大事にしてほしい。それがあつたうえで、何をどう学ぶか。
- 学習課題とまとめと振り返り、これら全部を1時間に入れようとすると難しい。複数の時間をかけてやっていくならできる。あまり縛られない方がよい。情報のインプットとアウトプットを積み重ねて考えを形成していくことが大事である。
- 指導技術がないとうまくいかない。今日の授業では、説明や指示、話し方が大事。話し方や机間指導は目的をもって、「いいアイデアがある」「この子は変わったな」というようなことをチェックしながら回ることが大事。話し方はどうしても時間がないと早口になってしまう。子どもたちの様子を見ながら意見を聞いたりして、話し方・話すタイミングなどを計っていく。
- 途中で相談しながら進めたり、役割分担できたりするのがTTの魅力。今回はTTだったので、もっと効果的にできるようにするとよい。
- 指導技術を伸ばすためには、授業の回数をこなすとよいが、自分の授業をビデオに撮って、自分で自覚することを積み重ねていく。